

アルミ缶 リサイクル ニュース

April
4
2017

Vol. 139



アルミ缶リサイクル協会

Japan Aluminium Can Recycling Association

東京都中央区銀座4-2-15 塚本素山ビル6階
Tel.03-6228-7764 Fax.03-6228-7769 〒104-0061
<http://www.alumi-can.or.jp>

2016年(平成28年)度アルミ缶回収協力者(一般)表彰 全国各地で表彰式

当協会は、アルミ缶の回収活動を行っている団体の中から、優秀な活動実績をあげられた方々を毎年表彰しています。本年度の表彰は全国で63団体(受賞者の詳細は、前号Vol.138に掲載)で、1月から3月にかけて全国各地で表彰式が開催されました。

関東地区(静岡県の一部含む)の受賞者につきましては、2月17日、東京都港区浜松町の東京會館にて、合同表彰式を開催しました。同時に本年度の優秀回収拠点の2社についても、表彰を行いました。



挨拶をする遠藤理事長(写真提供:産業新聞社)



挨拶をされる経済産業省製造産業局
坂元耕三金属技術室長(写真提供:産業新聞社)



乾杯の音頭を取る富永副理事長
(写真提供:LM通信社)

関東地区静岡県の一部を含む)の受賞21団体をお招きして合同表彰式を行いました。表彰に先立ち遠藤政宏理事長より「皆様の日頃の活動内容、あるいはご苦労の様子を手元の資料で紹介させていただきます。拝見しますと、文字通り地域に密着して、まさに草の根運動的に非常にご苦労をされている様子が、手に取るようにわかります。当協会としては皆様のご苦労に少しでも後押しができればということで、このような機会を持たせていただいています。表彰とは言っておりますが、我々業界の省資源・省エネルギー！循環型社会の実現という趣旨にご賛同いただいて、それに対する感謝の集いと思っております。」と挨拶がありました。

来賓を代表して、経済産業省製造産業局金属課金属技術室長の坂元耕三様より「まず昨年のリサイクル率90.1%に感謝を申し上げます。今日、ご参加の皆様の一ひとりひとりの活動が大事で、それがリサイクル率に直結します。アルミはボーキサイトから作るのですが、エネルギーがかかりませんが、アルミ缶をリサイクルすればその3%のエネルギーで済み、何度もリサイクルできます。アルミ金属は循環型社会に資するもので、経産省も他省庁と連携してこのリサイクルを進めていきます。また、3年後のオリンピック・パラリンピックでは組織委員会が金・銀・銅やアルミも含んだ貴重な『都市鉱山』で約5000個のメダルを再生したいと考えています。今日、お集まりの皆様も、この受賞を機会に活動の継続と、

仲間を増やして頂きたい。今日の受賞者は町内会や自治会、福祉法人やマンション管理組合、会社など、いろいろな単位の方が受賞されており、幅の広い取り組みと考えています。今後このリサイクル活動を広めていただきたい。」とお話をいただきました。

乾杯の際には、富永泰夫副理事長から「私どもはアルミ缶のリサイクルを目的とした協会です。皆様が本当に草の根のように協力いただいたことで私どものリサイクルが初めて成立します。国内の使用済みアルミ缶(UBC)は33万トン発生しますので、もっともつと集めていただいても集めるUBCがなくなることはありません。引き続き回収にご協力をお願いしたい。」と挨拶がありました。



アルミ缶回収協力者合同表彰式(関東地区)
およびアルミ缶優秀回収拠点表彰式



会場全景



表彰風景。左側：受賞者、右側：遠藤理事長(写真提供：鉄鋼新聞社)

遠藤理事長より出席された21団体に感謝状が手渡されました。



社会福祉法人児童愛護会青松学園 武井利明様(写真提供：産業新聞社)

「障がい者の方々の活動の(一)としてアルミ缶を業者さんと共に集める活動に取り組んでいます。今回、正直に感じたのは、本当に大勢の方が携わっていることで、今後も私達の事業として引き続き取り組んでいきたいと思えます。」



中野本町マンション管理組合 戸室靖和様(写真提供：産業新聞社)

受賞者を代表して次の2団体から受賞のお言葉をいただきました。
中野本町マンション管理組合(東京都中野区)戸室靖和様
「最初に飲料用アルミ缶があらわれたときにアルミ缶には「空き缶はくずかごへ」と書かれていたと思います。そのくずかごの絵が今は立派にアルミ缶リサイクルの絵に変わり、日本で作られた缶が90%以上回収されています。この数字に私たちもほんのちよつとでも貢献できていることは非常にうれしいことです。これからもエネルギーの削減を目標に一生懸命アルミ缶を集める所存です。」



株式会社池田 代表取締役社長 池田勝己様(写真提供：産業新聞社)

「各団体さんが本当に熱心に回収に意欲を燃やされていることに大変心を打たれました。むしろ私どもは団体さんにお礼を申し上げないといけない立場です。このような表彰の場を作っていただくことにより、我々業者と団体さんの絆を本當にうまかつ



なげていただいたなと感じています。我々業者としても団体さんの活動維持のため、いろいろサービス提供を考えていかなければいけない時期が来ています。行政の支援もありますが、地域に根ざして今後も続けていきたいと考えています。」
安田金属(株)天野勲様(製鋼原料部工場管理担当執行役員)
「アルミ缶などの資源回収に、廿日市市と広島市の約600か所以上の町内会、子供会などの団体と取り組んでいます。また、広く一般から資源を集める方法として廿日市市と広島市にエコパークという古紙、アルミ缶の無人回収所を8か所開設しています。時代と共に回収方法が変わり、また、新しい回収システムが作れば良いと考えています。今後、地域に寄り添ったリサイクル会社としてリサイクルに励んでいく所存です。」

アルミ缶優秀回収拠点表彰

三 缶 優 秀 回 收 拠 点 表 彰
主 催 : アルミ缶リサイ



アルミ缶優秀回収拠点 (株)池田・池田勝己様(左)、安田金属(株)天野勲様(中央)、鍛冶谷尚典様(右)



安田金属株式会社執行役員 天野勲様(写真提供：産業新聞社)





全国の表彰式

各地で表彰式が行われました。
受賞されました皆様の
お喜びの様子の一部を紹介します。



荒尾住宅町内会【愛知県東海市】
推薦拠点:河合商店



北庄内ポルトボール【静岡県浜松市】
推薦拠点:㈱ソルネット



サポートセンターおきたま・だいまち【山形県長井市】
推薦拠点:㈱北原産業



第二きそがわ作業所【愛知県一宮市】
推薦拠点:㈱ECO兼子



観音下老人クラブ資源物回収【佐賀県杵島郡江北町】
武雄市北方町地域婦人会【佐賀県武雄市】
推薦拠点:㈱イワフチ



高屋白木子ども会
北方町地域活動支援センターもちの木
【岐阜県本巣郡北方町】
推薦拠点:有船坂商店



城西町会連合会【青森県弘前市】
推薦拠点:㈱伸和産業



東欠子ども会【愛知県岡崎市】
推薦拠点:河合一郎商店



元欠子供会【愛知県岡崎市】
推薦拠点:岡崎資源回収協同組合



東中町子ども会【愛知県岡崎市】
推薦拠点:岡崎資源回収協同組合



桜川団地町会【青森県青森市】
推薦拠点:㈱伸和産業



弘前市徳田町町会【青森県弘前市】
推薦拠点:有小笠原紙業



社会福祉法人あじさい福祉会【滋賀県彦根市】
社会福祉法人ひかり福祉会たんぼぼ作業所【滋賀県彦根市】
推薦拠点:㈱昭和アルミ缶リサイクルセンター



2017年飲料用アルミ缶需要予測

2017年需要横ばい～225億缶(前年比100%)～



当協会は、毎年2月に「日本の飲料用アルミ缶需要量」について発表していますが、本年も2月17日(金)10時30分より記者会見(下写真)を行いました。2017年の飲料用アルミ缶の需要量は、前年223.8億缶から大幅な増加はなく、ほぼ横ばいの224.6億缶になると発表しました。ビールの落ち込みをその他アルコールやボトル缶がカバーすると予想します。



記者会見 遠藤理事長(中央)、富永副理事長(右)、保谷企画委員長(左)(写真提供:鉄鋼新聞社)

◆ アルミ缶出荷量予測はビール系が引き続き減少(99%)。ビール系以外のアルコールは増加(105%)。アルコール合計では前年比100%。
 ◆ 非アルコールは101%。SOT缶コーヒーは横這い。ボトル缶は増加するが伸びは鈍化すると予想。
 ◆ 輸出入を加味した総需要量はほぼ横ばいの224.6億缶(前年比100%)と予想。

2017年予測
 ◆ アルミ缶出荷量はビール系が減少(98%)するものの、ビール系以外のアルコールは増加(112%)。アルコール合計では前年比101%。
 ◆ 非アルコールは101%。SOT缶コーヒーが減少するものの、ボトル缶が増加し全体の減少を補う。
 ◆ 輸出入を加味した総需要量は223.8億缶(前年比101%)と推定。

2016年見込み
 ◆ アルミ缶出荷量はビール系が減少(98%)するものの、ビール系以外のアルコールは増加(112%)。アルコール合計では前年比101%。

● 日本の飲料用アルミニウム缶需要量(1～12月)

単位:億缶

暦年	2015年実績		2016年見込み		2017年予測			
		前年比%		前年比%		前年比%		
出先別 A 国内産缶	ビール(発泡酒・新分野含む)	99.7	99	98.0	98	96.5	99	
	ビール以外の飲料	その他アルコール	28.7	117	32.2	112	33.8	105
		非アルコール	85.7	125	86.2	101	87.4	101
	計	114.4	123	118.4	104	121.2	102	
小計	214.1	111	216.4	101	217.7	101		
	(内ボトル缶数量)	(25.6)	113	(29.5)	115	(31.0)	105	
空缶輸入量 B	0.5	100	0.5	100	0.5	100		
実缶輸入量 C	8.0	100	7.5	94	7.0	93		
実缶輸出量 D(空缶輸出含む)	0.6	100	0.6	100	0.6	100		
国内需要量(A+B+C-D) 合計	222.0	110	223.8	101	224.6	100		

▲ (参考) 米国の飲料用アルミニウム缶需要量

単位:億缶

暦年	2014年実績		2015年実績		2016年見込	
		前年比%		前年比%		前年比%
アルコール飲料(ビール他)	361.0	103	369.3	102	379.0	103
ノンアルコール飲料(清涼飲料他)	572.0	97	562.8	98	564.2	100
合計	933.0	99	932.2	100	943.2	101



(米国製缶協会調べ)

(注1)1996年以降、飲料用金属缶に占めるアルミニウム缶の割合は、100%となっている。
 (注2)2016年見込みは、速報値。



協会からのお願い

● タブは缶から外さずいっしょにリサイクル

アルミ缶のタブは環境保護のため、缶フタから離れないようにしてあります。タブはタブだけで回収するのではなく、缶に付けた状態で丸ごと回収してください。無理にタブを取るとケガをする場合もあり危険です。

● ボトル缶のキャップの取扱い

飲料用アルミボトル缶のキャップは、アルミ製です。キャップも貴重なアルミ資源です。キャップ・本体とも軽く水洗いした後、中の水分をよく切ったうえで、キャップを軽く締めて回収してください。

● アルミ缶にタバコを入れないでください

アルミ缶にタバコの吸殻を入れると、リサイクルの妨げになるだけでなく、火災の原因になる可能性があります。

アルミ缶のリサイクルは
タブをつけたままで!



編集後記

5月に入り強い日差しの日が続いています。一日の中で温度差が大きく体調をくずしやすい時季ですので、お気を付けて下さい。協会の業務も新年度を迎え、来協学習、アルミ缶回収協力者表彰(学校表彰、一般表彰)と次々迎えていきます。本年度も皆さんアルミ缶回収にご協力をお願いします。

アルミ缶リサイクルニュース第139号

発行日 平成29年5月2日
 発行人 森口 夏樹
 編集人 大西 輝彦
 発行所 アルミ缶リサイクル協会